

国際自然保護連合日本委員会 2015 年度事業報告  
(2015 年 4 月 1 日~2016 年 3 月 31 日)  
2016 年 5 月 31 日会員総会にて承認

2016/5/31

国際自然保護連合 日本委員会(IUCN-J)事務局

1. 団体としての記録

1.1. 加盟団体

2016 年 2 月 12 日段階で、国際自然保護連合(IUCN)に加盟している日本の団体は、国家会員 1(外務省)、政府機関会員 1(環境省)、NGO18 の計 20 団体となる。

内、IUCN 日本委員会(IUCN-J)加盟団体は、上記団体より 2 団体(未加入団体 2 団体)を除く計 18 団体に加え、国連生物多様性の10年市民ネットワークが準会員として入会したため、計 19 団体となる。

1.2. 会議開催

2015 年 5 月 12 日 役員会

2015 年 5 月 25 日 運営委員会

2015 年 6 月 5 日 会員総会

2015 年 6 月 22 日 役員会

2015 年 7 月 13 日 役員会

2015 年 8 月 7 日 役員会

2015 年 8 月 28 日 役員会

2015 年 9 月 10 日 会員会合

2015 年 12 月 14 日 IUCN-CEC 運営委員 リ・ハンイン女史意見交換会

2016 年 2 月 3 日 役員会

2016 年 2 月 12 日 運営委員会

2016 年 3 月 29 日 会員総会

1.3. 役員・運営委員改選

2016 年 3 月 31 日に任期満了となることから、2016 年 3 月 29 日会員総会にて、役員・運営委員の改選が行われた。会長 渡邊綱男(自然環境研究センター)・副会長 道家哲平(日本自然保護協会)を新役員として選出した。(副会長 日比保史(コンサベーション・インターナショナル・ジャパン)は重任。)新たな運営委員は別紙 6 参照。

2. IUCN-J 事業

2.1. 団体運営

IUCN-J および IUCN の会員拡大に向け、将来会員となりうる団体を規約上位置づける規約改正を行い、準会員制度を設けた。

2.2. 広報活動

IUCN レッドリストの改訂発表(6 月 23 日、11 月 19 日)に伴い、メディア対応を実施した。また、IUCN リーフレットの増刷(15,000 部)を行った。

### 2.3. 親善大使の活動支援

IUCN 親善大使であるイルカさんの、下記特別コンサートでの活動広報・募金活動を実施した。

催事名:2015 イルカ with Friends Vol.11 We Love You Planet!〜ひびけ!惑星に。

日時:2015年7月25日(土) / 山梨県河口湖ステラシアター 野外音楽堂

### 2.4. 協定団体との活動

2013年7月16日、愛知ターゲットの達成や、にじゅうまるプロジェクトに関する科学者・研究者との協働を進めるため独立行政法人国立環境研究所との間で、生物多様性の保全の推進に関する連携・協力に関する基本協定を締結。協定期間満了(2015年7月16日)や、国立環境研究所の名称変更(独立行政法人国立環境研究所→国立研究開発法人国立環境研究所)に伴い、再度7月に覚書取交わしを行った。また、本年度は、第2回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合準備をはじめとした活動を協働で実施した。

### 2.5. 外部委員会等への参加

#### ■ UNDB-J への参画

委員会(6月18日)、幹事会(9月29日、2月4日)、運営部会(9月9日、1月20日)

#### ■ SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークへの参画

総会(9月19日)、幹事会(8月12日、1月27日)

### 2.6. 主催・共催・後援事業

資料1 参考 参照

## 3. にじゅうまるプロジェクト

にじゅうまるプロジェクトを中心とした生物多様性の主流化推進のための活動を継続し、更なる事業と登録の拡大を行った。経団連自然保護基金に2年目事業として申請した「生物多様性の主流化推進のための活動(2014-2016)」(600万円)を主な資金源として実施した。

### 3.1. 登録事業の世界・全国広報事業

#### 3.1.1. 生物多様性条約関連会合などへの参加を通じた、国際的情報収集・情報発信

##### ■ IUCN アジア地域自然保護フォーラム(8月10日~12日、タイ・バンコク)

IUCN-J としては、副会長 日比保史、事務局長 道家哲平、アシスタントマネージャー 佐藤真耶計 3名が参加し、情報収集や国際連携の機会とした。フォーラムでは、IUCN 理事の堀江正彦、副会長 日比保史が登壇し、生態系を基盤とした防災・減災について講演を行った。フォーラムとは別に、日中韓 3カ国の国内委員会メンバーが集まり、今後日中韓 3カ国の国内委員会が定期的に情報交換を行うプラットフォームを作るための打合せを実施した。(2016年度に韓国にて初回開催予定)

収集した情報は、にじゅうまるプロジェクトブログで公開している他、IUCN 日本委員会会員会合(9月10日開催)に併せ、報告会を行った。

##### ■ 生物多様性条約第19回科学技術助言補助機関会合(以下、SBSTTA19)(11月1日~7日、カナダ・モントリオール)

事務局長 道家哲平、ユース 2名の計3名が参加し、情報収集や国際連携の機会とした。帰国後、国連生物多様性の10年市民ネットワークと共同で報告会(11月18日)を実施した。

## 3.2. 登録促進・連携強化実施事業

### 3.2.1. にじゅうまるに関する“ストーリー”の共有による活動活性化と新規登録事業促進

当事業は、IUCN 日本委員会のメンバーである野生生物保全論研究会(JWCS)と共同で実施した。インタビューを実施する団体の選定を行うため、予備調査としてアンケート調査を実施。宣言のきっかけや、宣言時に大変だったこと等を調査した。にじゅうまるプロジェクトに関わる内容だけではなく、愛知ターゲット 3(補助金・奨励措置)に関する項目についても同時にアンケート・インタビューを実施した。回答は、今後の活動活性化や新規宣言事業の件数増加のための仕組み作りの材料とする。

### 3.2.2. MY 行動宣言の参加促進キャンペーン

日本動物園水族館協会、環境省 生物多様性施策推進室、デザイナー(よそ見屋ふるここ 荻本央氏)と協働し、MY 行動宣言の宣言用紙のデザイン・文言共に再検討し、子供でもわかりやすい記載・説明を加えた MY 行動宣言「5 つのこと」を作成した。また、新たなツールとして、紙芝居、紙芝居解説用の冊子、ポスター、シール台紙を作成した。一新したツールは、5月 28,29 日に開催された日本動物園水族館協会の総会にてリリースを行った後、動物園・水族館の園館長会議や研究会などの機会を通じ、ツール利用を促すアナウンスを行った。

その後、環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室が実施している「COOL CHOICE」キャンペーンと、MY 行動宣言の連携を行うことが決定し、COOL CHOICE の文言を挿入した冊子 50 万部を増刷した。増刷した冊子は、日本動物園水族館協会加盟の 151 動物園館に配布を行い、来年度より本格的に配布を開始する。

### 3.2.3. にじゅうまるパートナーズ会合(にじゅうまる COP2)の開催

名古屋大学大学院環境学研究科との共催により、2月 20,21 日に名古屋大学野依記念学術交流館にて開催。目的は、にじゅうまるプロジェクト全体の進捗を把握・共有し、愛知ターゲット達成のために今後必要となる動きについて議論し、結果を政策に反映させることとした。

全体会合では 8 団体による活動紹介、記念フォーラムでは 3 名の講演者を招へい、分科会では、活発な取り組みを行っている 8 団体がコーディネーターを務め、活発な議論が行われた。

### 3.2.4. ユースの手によるユース育成事業

生物多様性わかものネットワークとの共催により、9月 12、13 日に八王子セミナーハウスにて、合宿型のイベントである第 5 回生物多様性わかもの会議が実施され、23 名の大学生・若手社会人が参加した。今回のテーマは、愛知ターゲット 4(持続可能な生産と消費)に関する内容となり、「身近で行われている「生き物(いのち)を消費する」ということ」というタイトルで実施された。

SBSTTA19 には、法政大学 宮崎桃子、日本大学 長谷山陽大の 2 名を派遣した。

### 3.2.5. 協働事業の実施

- 5月22日の生物多様性の日には、不特定多数のSNSユーザーの協力を得て、同一のメッセージを一斉に同時刻に発信するWEBサービス「Thunderclap」を使用したキャンペーンを実施した。5月22日正午にWeb上にて“生物多様性の日とMy行動宣言に関するメッセージ”及び“MY行動宣言へのURL”を拡散させた。結果、Facebook、Twitterを通じて77,167人にMY行動宣言に関するメッセージを届けた。
- エコプロダクツ2015に関しては、今年も昨年と同様、「生物多様性ノレッジスクエア」というプロジェクト名で、計13団体と共同で、関連団体の協働型展示やスタンプラリーを実施した。
- UNDB-Jの認定連携事業については、Iki・Tomo推進事務局として、第7弾10事業(2015年10月)、第8弾6事業(2016年3月)の認定手続きを支援し、多様な主体の協働の奨励と広報に貢献した
- おりがみアクションについては、イベントへの出展・共催などの形で、合計11回のアクションを実施し、3.2.2.MY行動宣言の参加促進キャンペーンと協働しながら生物多様性に関する普及啓発を行った。

## 4. 2020年に向けた事業

2020年の国際的な重要性を考慮し、世界自然保護会議(IUCN World Conservation Congress 以下WCC)の出来る限り早期の誘致も選択肢に、2020年に向けた取り組みの検討を実施した。地球環境基金に3年事業として申請した450万円を主な資金源として実施。

### 4.1.1. WCC 誘致活動

4~8月にかけて、WCC2020の誘致に向けた活動を開始する準備として、誘致趣意書の作成や、誘致準備会の立ち上げを行った。その後、東京オリンピック2020やホスト自治体の可能性など誘致に関しては活発な意見交換を行い、今後日本として何を行っていくか検討する場として、「2020年とその先の未来について考える場」を設け、勉強会や意見交換会を開催する方向で一致した。

また、前述3.1.1の機会を活用し、IUCN本部のUnion Development GroupのGlobal Directorや、IUCNアジアオフィスのRegional Director他3名と会議を設け、IUCN-Jの2020年に向けた今後の活動について意見交換を行った。

### 4.1.2. 企業向けキャパシティビルディング

企業向けのセミナーの内、自然資本会計に関するものは、予算の都合上情報収集を見送った。代替として、ISO14001の改訂に併せ開催された企業向けフォーラムにパネリストとして参加し情報発信を行った。(2月23日)。

開催を予定していたコンサベーションフロンティアセミナーに関しては、IUCN-CECより保全心理学の専門家リー・ハンイン女史を中国から招へいし開催した。当初予算では大きなセミナーの実施が難しかったため、日本の関係者向けの小規模セミナーを実施した。他、日本のIUCN関係者とのミーティングを設定した。セミナー参加者約20名、打合せ10件を通じ、来年度以降のコンサベーションサイコロジーの開催について検討を行った。

## 5. 謝辞

本事業の実施に際しまして、下記の企業から協賛の御寄付を頂きました。(50音順)  
ここに厚く御礼を申し上げます。

IUCN 親善大使 イルカさんより コンサートを通じた募金

株式会社 ヘミングス 様

株式会社 マルワ 様

カラータ 株式会社 様

三菱電機 株式会社 様

リゾートトラスト 株式会社 様